

ジャーナリスト

JAPAN CONGRESS OF JOURNALISTS
日本ジャーナリスト会議 (JCJ)

〒101-0064 東京都千代田区猿樂町1-4-8 松村ビル401号 電話03-3291-6475 FAX.03-3291-6478
メールアドレス: jcj@tky.3web.ne.jp URL http://www.jcj.gr.jp

年間購読料3000円(送料込み) 振替 00190-2-76501

THE JOURNALIST

2007.5.25

憲法メディアフォーラム 開設2周年記念シンポ

メディアの言論力を問う

護憲論調が確実に拡がる 集団的自衛権の行使は「ノー」

5月12日、東京・飯田橋のしごとセンターで「憲法メディアフォーラム開設2周年記念シンポジウム、メディアの言論力を問う」が開かれた。参加者は80人。

「憲法メディアフォーラム」はMJC(日本マスコミ文化情報労組)とJCJが共同で運用しているサイト。

MJC議長・嵯峨仁朗さんの挨拶、美浦克教前MJC議長の活動報告に続いてパネルディスカッション。JCJ運営委員の丸山重威(関東学院大教授)がコーディネーターとなり、3人のジャーナリストが討論した。

長年、NHKスペシャルを制作してきた桜井均さんは、憲法九条に対するポジティブキャンペーンが必要だとし、今年に入ってからのNHKの積極的な憲法関連番組について語った。

朝日新聞社会部の藤森研さんは、地方紙、全国紙の04年、05年の憲法記念日の社説を調べた結果を示し、論調を改憲的と護憲的に振り分ければ、ほぼ3対1で護憲論調が優ることを指摘、追い込まれているメディアは士気低下を踏みどまるとして、

休戦後、質問用紙に答える形で質疑。社説を書くときは話し合うのか、若い人たちに語りかけるにはどうするかなど活発な質問が出された。

「今週のことごとく」スタート。更新に合わせてメルマガジンの発行を開始。06年1月1日、大型座談会第1弾「いま、憲法を伝えよう」公開。

9月、大型座談会第2弾「現場記者が見た小泉政治」を公開。アクセスが初めて1万件突破。

07年1月1日、大型座談会第3弾「安倍政権発足とメディア」公開。



問題提起
ジャーナリスト
斎藤貴男さん



野中章弘さん 卒人学式の君が代強制は違法とした高裁判決を1面トップで報じたのは「東京」と「朝日」、社会面トップは「毎日」、第二社会面では「読売」、小さく扱ったのは「産経」だった。

教育とメディアが狙われている。大学で「石原都知事は一般に右翼、左翼どちらと言われているか」と質問したら、「左翼」と書いた学生が多

く、「右翼」と書いたものは一人もいなかった。政界に物を言うのは左翼と

府に物を言うのは左翼と政界に物を言うのは左翼と

府に物を言うのは左翼と政界に物を言うのは左翼と

府に物を言うのは左翼と政界に物を言うのは左翼と

府に物を言うのは左翼と政界に物を言うのは左翼と

改憲先取り 許すな

差別・強制・参戦の現場から報告

6月集会、16日(土)に 斎藤貴男氏

十分な議論が尽くされないまま改憲手続き法である「国民投票法」を成立させた安倍政権、7月

の参院選では改憲を最も大きな争点として戦うと

している。JCJではこの緊迫し

た状況をどう捉え、6月集会で改憲先取り状況の現在を事実上即して告発し

ていく。題して「検証

美しい国への260日

進む差別・強制・参戦の現場から

問題提起

検証: 美しい国への260日

進む差別・強制・参戦の現場から

跡継ぎ育てて力作を



桜井均さん 憲法制定時に九条は天皇を残すために決められた。国民の権利も九条があったからこそ。戦争になればバリアフリーどころではない。

マスコミも同じだ。自由が増進した戦争はかつて

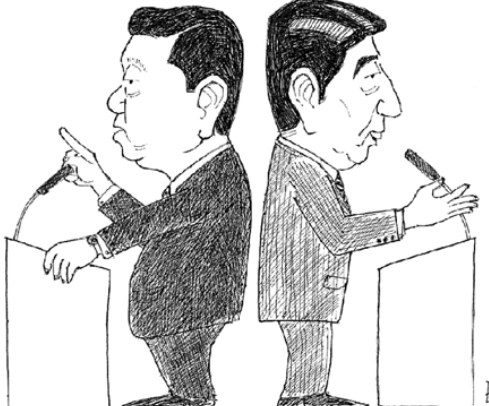
制に抗して 佐藤美和子

在日米軍基地と参戦の恐怖

金子豊貴男

コミックJCJ

江草普二



党主非討論



藤森研さん ほとんどすべての世論調査で憲法改正賛成が過半数を超えたが、九条を守り集団的

自衛権の行使は必要ないという意見が優勢だ。この民意をどう政治に反映させるか。

朝日新聞は論説委員が30人いて、取材などで居ない人を除く20人ほどが毎日会議をして社説項目を決める。執筆の後、担当者が説明する。憲法記念日に一挙掲載した21本の社説は好評だった。

安倍政権が進める「美しい国へ」の危険な狙い

JCJ6月集会

6月16日(土) 午後1時半
全水道会館 4F (水道橋)
東京都文京区本郷 141
☎03-3816-4196
参加費 1,200円
予約・JCJ会員 1000円 学生 600円

検証: 美しい国への260日
進む差別・強制・参戦の現場から

記者魂、最期まで

岩切信さんを偲ぶ会に180人

「只者でない」人柄、口々に

丸テールが並んだ会場の中央には写真と花が飾られ、入り口脇のコリーには、難波竹一朗さん撮影の写真(3月号2面掲載のもの含む)が

コーラジュされて、東京新聞争議やJ・C・J事務局長の時期の岩切さんの活動を知られることができる。4月21日、東京・九段北のアルカディア市ヶ谷で開かれた岩切信さんを偲ぶ会は、しみじみした中にも賑やかさの感じられる会となった。全国から180人が参加、予定を大きくオーバーした。



司会は東京新聞労組OBの中川清一さんと現職の長田ヨキさん。まず呼びかけ人を代表して元新聞労連委員長の小島明将さんが「ジャーナリストとして、新聞労働者としてよく生きよく闘った」と挨拶した。続いて東京新聞OGの安井礼子さんが、昨年2月に咽喉がんが見つかったからの岩切さんの闘病経過を報告。そのつど短い文章で自分の病状を知らせる岩切さんは、最期まで新聞記者らしい病気の向き合い方だったと語った。



子息の山口直さん、むつ子さん夫妻、令嬢の岩切幸子さん(写真①)の挨拶の後も多くの方が岩切さんとの交流とその人柄を語った。J・C・Jの橋本進さんは、「出版労連から徳山へ山口放逐闘争の支援に行ったときに、冷

静沈着な男がいた。それが岩切さん。これは只者ではないと思った」と初対面の印象を語った(写真②)。

東京新聞争議の弁護団長だった浜口武人さんは「岩切さんは情の人。情を尽くし、理を尽くして相手を説得した」と振り返った。

その昔、「議会は資本家の支配の道具に過ぎないのかどうか」と随分議論した。頭の片隅で「その通りだ」と思いながら、それでも「人間は理性の動物。議論すれば、間違った方向にはいかないはずだ」と言ってきた▼だがいま、この国会はどうだろう。公聴会の意見は、馬の耳に念仏だし、質問にはしごもどろ。なのに、すべてスケジュール通り

の決着。改憲手続き法は返った。岩切さんたちの解雇撤回を勝ち取った東京新聞労組の闘いは新聞労働者の運動の中でも画期的なもの。新聞労連の嵯峨仁朗委員長(北海道新聞)は、「委員長になったとき必読と言われた」と、闘争当時、北海道労組から東京新聞労組に贈られた

は権力の道具」という主張への反論は「国民は選挙で政権を変えることが出来る」ということだ。しかしそれも、小選挙区制の中では影が薄い。「自公VS民主」ではなく、憲法を軸に、「自公・民主」に対し「社・共」で対抗軸が作られ、護憲勢力が結集できなければ、それこそ「靖国派」の思うツボだ▼「共産党と一緒にやると組織がつぶされる」「社民党は共

産党の組織を利用しようとするだけだ」。そんな意見を随分聞いた。当たっているのかもしれない、双方の不信があるだけかもしれない。だが、そんなことでもいいのだろうか。もう「九条護憲救国戦線」を真剣に考えるときではないのか▼「九条護憲」候補次々当選。国民投票法廃止へ」。参院選でそんな記事を見たのは私だけなのだろうか。

視 角

た詩「年々歳々 五月の空の如く」を朗読した。組合員としては3年しか岩切さんと重ならないという現在の東京新聞労組委員長の坂本亜由理氏は、「87年の朝日新聞阪神支局襲撃事件で、赤報隊の声明文に毎日、東京の名もあつた。それを東京新聞は『報道各社』と報道し、当時の労組は団

交で「奮しにひるむのか」と追及した」と、岩切さんの記者魂を引き継ぐ東京新聞労組の伝統を語った。

J・C・J代表委員の宮崎絢子さんは岩切さんの著書『オールドの記憶 ナチスに虐殺されたランスの村』の後書きを朗読した(写真③)。

末に提出するとしているが、抜け穴だらけの「ザル法」だ。政府・与党の本音は参議院選挙を前に、改革のポーズを見せながら、時間切れで逃げ切りを図ろうとするものだ。国民を欺く態度は許されるものではない。

4月28日、東京・千駄ヶ谷の日本青年館で相羽宏紀(ひろもと)さんを偲ぶ会が開かれた。多彩に活動した相羽さんを追悼して、95人が参加した。

相羽さんが組合史を執筆した組合、相羽さんに校舎の移転問題を報じてもらった小田原の私立学校の関係者、相羽さんがまとめた著作『欠陥マンション改善の闘い』の舞台でもあるマンションの住民でもある連合通信の山田幹夫さんなど、機関紙ジャーナリストとしての活動を反映して多くのエピソードが語られた。最後に、パートナーの吉開那津子氏(作家)が家庭人としての相羽さんを語り閉会した。

国会 国民愚弄の法案続々

教育・在日米軍再編促進 イラク特措法延長・労働 監視怠るな

国会の会期が1カ月を切った。残されたわずかな期間に、重要法案が目白押しである。

18日に衆議院を通過した教育3法案は、22日の参議院文教科学委員会で論議が始まった。

義務教育の目標に「規範意識」や「我が国と郷土を愛する態度」を盛り込む学校教育法改定案などの教育3法案は、安倍首相が最重要課題と位置づける憲法改悪の延長線上にある。

衆議院の審議では、憲法が保障する思想・良心の自由を侵さないかとの追及に対し、政府は「国による特定の価値観の押しつけではない」との答

弁を繰り返すだけで、教育に対する国の管理強化という疑問は全く解消されてない。

参議院でこれらの問題について、どう審議を徹底するか。改憲手続き法同様十分な審議を尽くさないまま自民・公明両党の採決強行を許すなら、教育現場は大混乱をきた

し、子どもたちの将来に禍根を残す。沖繩米軍のグアム移転費を日本側が負担する在日米軍再編促進法案の審議も22日、参議院外交防衛委員会で始まった。この屈辱的な法案に、参議院がどうメスを入れ、国民の信頼に答えるのか。

案も23日の参院本会議で審議入りする。イラク侵略戦争開戦の理由とされた「大量破壊兵器」はイラクに存在しなかった。しかし、安倍首相はひたすらブッシュ大統領を弁護するだけだ。しかも、航空自衛隊がイラクで何を運んでいるのか、政府は国民に何も説明していない。

これで、イラクへの航空自衛隊派兵を2年延長しるとは、国民を愚弄するにもほどがある。これ以外にも、社会保

険庁解体・民営化法案や最低賃金法改正案などの労働3法案、天下一「自由化」の国家公務員法改定案(以上衆院)など重要法案の審議が踵(きびす)を接している。

もう一点、極めて重要なのは政治とカネの問題だ。松岡農水相の「ナントラ還元水」疑惑で国民の怒りが頂点に達して以来4カ月。自公両党は5万円以上の経常経費について領収書添付を義務づけることなどとする政治資金規正法改正案を5月

6月23日の会期末まで、野党、とりわけ民主の責任は大きい。同時に、メディアも重要法案の審議を厳しくウォッチし、国民に伝えてほしい。

河野慎一

多彩な活動ぶり示す

相羽宏紀さんを偲ぶ会

労働運動史と重なる人生

4月28日、東京・千駄ヶ谷の日本青年館で相羽宏紀(ひろもと)さんを偲ぶ会が開かれた。多彩に活動した相羽さんを追悼して、95人が参加した。

初めに弟さんの宏威氏が日本橋に生まれ横浜市に転居した子ども時代のことを語った。

相羽さんが都立大学在

参加者の心のもったスピーチは、相羽さんの越し方を浮き彫りにして、自ずと戦後の労働運動史ともなった。

最後に、パートナーの吉開那津子氏(作家)が家庭人としての相羽さんを語り閉会した。

相羽さんが組合史を執筆した組合、相羽さんに校舎の移転問題を報じてもらった小田原の私立学校の関係者、相羽さんがまとめた著作『欠陥マンション改善の闘い』の舞台でもあるマンションの住民でもある連合通信の山田幹夫さんなど、機関紙ジャーナリストとしての活動を反映して多くのエピソードが語られた。

大野晃の スライムコラム

高校の野球特待生が問題となっている。授業の意欲や能力を備えながら経済的困難を抱えている生徒の救済を本音とする

混迷する「高野連」非難

球以外の競技が参集する特待生制度を、課外活動の強化にまで拡大して金まみれの少年野球を生み出す温床になっている現実がある。学校教育の一貫と位置づけられる部

環境にある特殊生徒にはかならない。そのあり方は学校教育の基本に関わる問題である。

そこで、永年、高校スポーツの全国大会などを

主権、共催、後援してきた朝日、読売、毎日の3全国紙がどう問題をとらえているのかを、関連した社説で点検してみた。

さらに授業と課外活動を併列して論じて、課外活動専念を問題視しない。アマチュア規定が消滅した他競技の歴史的経緯を見ずに、野球

以外に認められていると部活動特待生全体を野放しにしようとしている。そのくせ高野連が問題を放置してきたと八つ当たりとしか思えない非難を浴びせ、共催者の責任には口をつぐんでいる。

読売は「プロに送り出しているスポーツは他にたくさんある。ドラフト『希望入団枠』が撤廃されて心配だ」と巨人オーナーの本音を暴露した。

毎日には西武の未公表部分



テレビの本音

5月14日昼前。改憲手続き法は衆院本会議で強引に成立させられてしまった。

NHKの昼ニュースの表現に違和感を抱えた。「これで改憲に向けての具体的手続きが整うことになった」という。

辺野古沖合 「日本海軍」がやってきた

環境「事前」調査に海自出動の暴挙

5月17日夜から18日未明にかけて、海上自衛隊の掃海母艦「ぶんご」が辺野古沖に姿を現した。すでに4月下旬、米軍基地建設に向けたアクセス

調査機器設置作業にあたる作業船団や海上保安庁巡視船、ゴムボートなど40隻もの船を動員して、カヌーや小型船による住民らの海上抗議行動を翻弄したが、今回、海底への



掃海母艦「ぶんご」(ホームページより)

ゴムボートで走り回るなど、数々の危険行為を行なった。自衛艦派遣に、沖繩戦時の日本軍(皇軍)への恐怖を呼び覚ました人々は少なくない。自衛隊と名称が変わっても国民の忌避感情は続いてきた。

今回、国家とその軍隊が、再び沖繩住民に牙を向けたのだ。自民党県連さえ「本県の本質的な政治情勢を全く理解していない」と批判した。

施設局は20日までに海象調査とサンゴの着床器具の設置を終えたが、点検した市民団体による

NHK経営委員 長人事に意見書

政府が空席のNHK経営委員長に、安倍首相を菅委員長に、安倍首相を菅委員長に、安倍首相を菅委員長に、安倍首相を菅委員長に

一人である富士フィルムホールディングス社長の古森重隆氏を起用する方針を固めたことが、報じられた。しかし放送法の定

めるところではNHK経営委員長は委員の互選で選出する。政府は放送法を公然と無視して、NHKの最高意思決定機関の長を決めてかろうとしていることになる。

「NHKを監視・激励する視聴者コミュニティ」はこうした放送法無視の行為をやめさせ、経営委員会が政権から自立

沖繩リポート

連載

民の忌避感情は続いてきた。今回、国家とその軍隊が、再び沖繩住民に牙を向けたのだ。

施設局は20日までに海象調査とサンゴの着床器具の設置を終えたが、点検した市民団体による

一人である富士フィルムホールディングス社長の古森重隆氏を起用する方針を固めたことが、報じられた。しかし放送法の定

めるところではNHK経営委員長は委員の互選で選出する。政府は放送法を公然と無視して、NHKの最高意思決定機関の長を決めてかろうとしていることになる。

経営委員会が政権から自立

中村梧郎写真展 マグナム参加作品に

ニューヨークのJohn Jay Collegeで、2月6日から6月17日まで行われている中村梧郎さんの「ORANGE展(枯葉剤写真展)」に行ってきました。この写真展は、MAGNUM創立60周年記念の「参加作品」になったそうです。「マグナム参加作品」の決定はとて名譽あることで、この快挙を共に喜びたいと思いました。



大学のギャラリー・コミュニティによる厳正な審査を経て、実現した写真展

6月には、ベトナムの枯葉剤被害者がニューヨーク連邦地裁に提訴していた裁判の判決があるそうです。私は、この写真展が裁判支援の力になることを願って会場を後にしました。(横井久美子/シンガーソングライター)

「どうせ負けたって構ったものじゃねえ」とのるかそるかやっつけるとだ(大要)。

仲築間卓蔵



5月6日の決選投票で、フランスは右派与党UMP(国民運動連合)のニコラ・サルコジ候補(52)を新大統領に選んだ。初の女性大統領としての期待を集めた社会党のセゴレーヌ・ロワイヤル候補(53)は健闘したが、12年ぶりの左翼政権奪回

九州・携帯基地局撤去もとめる裁判相次ぐ 企業による人体実験を許してはいけない



近年、携帯電話と中継基地局の間で送受信される電磁波に、健康被害の危険が存在するという研究結果が続々と発表されている。例えば、2004年にイスラエルで行われた調査によれば、携帯電話基地局周辺では、それ以外の地域に比べてがん発生率が4・15倍になり、(女性だけに限れば10・5倍)になるといわれる。驚くべき結果が発表されている。

はじめとする携帯電話企業は、中継基地局の乱立を続けており、平気で住宅地のすぐ近くに携帯電話基地局を建設している。そして彼ら携帯電話企業が住民に対して説明する際の決めまりのフレーズは、「国の基準を守っているから安全だ」というものである。

この基準がいかに甘いものであるかは、スイスが日本の140分の1以下、ロシア、ポーランド、ブルガリアが60分の1というように、他国が日本に比べて著しく厳しい基準をとっていることから明らかである。

そもそも、「国の基準を守っていれば安全だ」という論理が誤っていることは、水俣病、じん肺、薬害エイズ、薬害ヤコブ病といった過去の公害・薬害の歴史を振り返れば明らかである。にもかかわらず、住宅のすぐ近くに携帯電話の中継基地局を乱立させる携帯電話企業の行為は、まさに住民を使って人体実験を行っているに等しい。

また、平成2年に答申された「電波防護指針」が定めた基準がそのまま使用されており、その後

この結果失業率も高くなつた。こうした高福祉国家の矛盾を脱却するために、週35時間労働制を破棄し、超過勤務手当には税金を免除するという、アメリカ流競争原理に立つサルコジ氏の公約は、84%もの高い投票率を記録した大統領選挙決選投票で受け入れられた。

実利の人、サルコジ仏新大統領

減らすことを公約、得票率53%で当選。一方のロワイヤル氏は4人の子の母として、失業青年、移民、女性など社会的弱者を救済する社会福祉の充実を訴え、全左翼を結集する候補になったが、得

票率は47%にとどまった。このことはグローバル化とEU(欧州連合)の拡大が進み、ヒト、モノ、カネが国境を越えて移動

する時代に、多数派はサングラスの脱く自由競争によるフランス経済の脱皮に賭けたことを意味する。フランス人は20世紀末まで「自由競争」「弱肉強食」のアメリカ流資本主義を「野蛮な資本主

義」と軽蔑していた。欧州は19世紀以来の階級闘争を通じて資本家の横暴を抑え、社会福祉政策によって貧富の差の少ない公正な社会を築き上

内相として、失業と差別

敗訴続く「慰安婦」裁判

4月27日、最高裁で「中国人元慰安婦」損害賠償請求訴訟の敗訴が確定した。どれくらいか。このままでは、この国は同じことを繰り返すことになるであろう。



撮影・石川純

太平洋戦争韓国人犠牲者④「海南島戦時性暴力被害」、⑤「フィリピン従軍慰安婦」⑥「オランダ人捕虜・民間抑留者」⑦「在日の元慰安婦」宋神道さんの謝罪補償請求裁判、⑧「釜山従軍慰安婦」女子挺身隊公式謝罪等請求。

これらの訴訟のそれぞれに被害者の悲痛な思いが込められているのだから、この訴訟のそれぞれが、歴史認識を強調するJCJの一層の活躍が期待される。保坂義久

また沖縄が、アメリカから日本に返還されていなかった1963年10月に、暴動を起した移民の若者を「社会の屑」と呼び、暴動を力で鎮圧するとともに移民の受け入れを選択制にする移民規制を進めた。フランス革命以来の「自由、平等、同胞愛」の理念に反する政策を平気で進める実利主義者である。

革命以来200年余りの歴史をになうフランスの左翼は、サルコジ大統領の任期が終わる2012年までの間、どのようにリベンジするのだろうか。

民藝公演『沖繩』

どうしてもとり返しのつかないことを……

沖繩本島から西南数百キロの小さな島に、敗戦後15年して波平秀(日色ともゑ)は戻ってきた。島の洞窟で、彼女は戦争中に体験したさまざまな幻覚にさいなまれる。

豊年祭りの夜、洞窟の開口部から縄にぶら下がって一生懸命にやら作業をしていた山野から、秀は聞き出す――彼は戦争中、沖繩の青年を背後から射殺していたのだ。その青年こそ、秀がひそかに心を寄せていた青年ではなかったのか。秀は決心する。――どうしてもとり返しのつかないことを、どうしてもとり返すために――。

演劇回り舞台

その島には、元日本兵だった男・山野武吉(杉本孝次)が、島の女けい(中地美佐子)を妻にしてひそかに隠れ住んでいた。山野は、島の製糖会社をヤマトの資本が買収

うが、「海南島：訴訟」を除き、いずれも敗訴が確定している。今回の判決は「河野談話見直し」の動きと、アメリカ下院での「慰安婦決議」と同時期に出たが、マスメディアで日本の戦争責任問題が深められる契機とはなっていない。歴史認識を強調するJCJの一層の活躍が期待される。保坂義久

市民とジャーナリストを結ぶ

JCJジャーナリスト

年間購読は3,000円です。

日本ジャーナリスト会議の月刊誌です。

電話、FAX、Eメール、ハガキでお申し込みください。

〒101-0064 東京都千代田区猿樂町1-4-8松村ビル401
TEL 03-3291-6475 FAX03-3291-6478
Eメール jcyj@tky.3web.ne.jp
日本ジャーナリスト会議

ブッシュのホワイトハウス

権力者の不道徳―ブッシュ政権裏面史

ポブ・ウッドワード
伏見威蕃訳



本書は、パパ・ブッシュが長男を自身につづいて大統領に、と活動をはじめめる1997年秋から2006年6月までの、ホワイトハウスにかかわった政治家たちへの膨大な取材の記録である。

『ブッシュの戦争』『攻撃計画』とあわせて三部作といわれるが、この前二作が特定のテーマに絞られているのに対し、本書はブッシュ政権の裏面通史ともいえるべき力作である。

書評

本・BOOK・ほん

大量破壊兵器の存在を最大の理由としてはじめられたイラク戦争。だが存在を確認できる証拠など最初からない。

「すべてが喜劇」「誤った想定、過度の楽観、リアリティの欠如」「ワシントン」の権力者



「新聞離れは、読者が新聞を見放したのではなく、新聞が読者から離れたのだ」(地方紙社員)との指摘は、著者ならずともうなずかざるを得ない。

例えば新聞への軽減税率によって増税の危機から逃げようとする姿勢からは、読者は生まれてこない。

新聞社 破綻したビジネスモデル 河内 孝

瓦版の原点に立ち返って再生せよ 的確な現状分析に立つ改革案

ライオンに追いつめられて逃げ切れないと、ラクタは砂の中に頭を突っ込む―これが新聞界の現状ではないかと警鐘を鳴らす本書の著者は、元毎日新聞の常務取締役。破綻した部数至上主義

「新聞離れは、読者が新聞を見放したのではなく、新聞が読者から離れたのだ」(地方紙社員)との指摘は、著者ならずともうなずかざるを得ない。

例えば新聞への軽減税率によって増税の危機から逃げようとする姿勢からは、読者は生まれてこない。

この中で「朝日」読者の2紙体制の加速化を予想する著者は、多様な言論を維持するためには、3極目作が必要だと説く。

「新聞離れは、読者が新聞を見放したのではなく、新聞が読者から離れたのだ」(地方紙社員)との指摘は、著者ならずともうなずかざるを得ない。

前進座の3次にわたる中国訪問公演のうち、特にプロレタリア文化大革命的激動期と重なった2次訪中公演の1966年に発生した台本改作の大事件。

露伴の名作『五重塔』

鑑真和上 故国の土を踏む 十島英明

日中文化交流の波瀾と成功の記録 無数のエピソードの放つ天真爛漫

が、似ても似つかぬ図式的なプロパガンダ劇に交えられてしまい、舞台監督を務めた著者は、公演を終えるや即刻、上演台本を火に投じる。

この本を貫く一本の太い筋は、井上靖原作『天平の甕』の中国公演にまつわる。02年5月の国立劇場公演の成功をバネに、ついに03年10月、北京、揚州、上海での中国公演が実現する。サブタイトルは「鑑真東渡」。

「週刊ひとよし」の連載をまとめたものというが、「あちらこちらへの蛇行」ぶりに、なんともいえない味わいがある。

「週刊ひとよし」の連載をまとめたものというが、「あちらこちらへの蛇行」ぶりに、なんともいえない味わいがある。

「普通」の国にな りましよう 『C・ダグラス・ラミス著 大月書店 1200円』

各国国民には、歴史や社会状況によって、思考や行動に一定の傾向があるのは否めない。周囲の眼を気にしがちの日本人は「普通」という言葉に弱いようだ。そこでほとんどどの国は軍隊をもっている、日本も憲法を改正してフツの国になろうという呼びかけは、日本人の心性に浸透しやすい。

訂正

本紙4/25号書評欄の「ドイツは過去と…」の記事中、強制労働補償基金の名称が「過去、記憶、未来」となっています。訂正

鑑真和上 故国の土を踏む 十島英明

日中文化交流の波瀾と成功の記録 無数のエピソードの放つ天真爛漫



が、似ても似つかぬ図式的なプロパガンダ劇に交えられてしまい、舞台監督を務めた著者は、公演を終えるや即刻、上演台本を火に投じる。

この本を貫く一本の太い筋は、井上靖原作『天平の甕』の中国公演にまつわる。02年5月の国立劇場公演の成功をバネに、ついに03年10月、北京、揚州、上海での中国公演が実現する。サブタイトルは「鑑真東渡」。

「週刊ひとよし」の連載をまとめたものというが、「あちらこちらへの蛇行」ぶりに、なんともいえない味わいがある。

「週刊ひとよし」の連載をまとめたものというが、「あちらこちらへの蛇行」ぶりに、なんともいえない味わいがある。

「普通」の国にな りましよう 『C・ダグラス・ラミス著 大月書店 1200円』

各国国民には、歴史や社会状況によって、思考や行動に一定の傾向があるのは否めない。周囲の眼を気にしがちの日本人は「普通」という言葉に弱いようだ。そこでほとんどどの国は軍隊をもっている、日本も憲法を改正してフツの国になろうという呼びかけは、日本人の心性に浸透しやすい。

訂正

本紙4/25号書評欄の「ドイツは過去と…」の記事中、強制労働補償基金の名称が「過去、記憶、未来」となっています。訂正

短歌

現代の窓

評小石雅夫

東 長二(沃野)

かたはらは母色つくハウスにて基地に沿ふ道ひろく長しも 歌壇5月号「土着」

基地に沿ふ道長くともかたはらの畑つものみな今年出来よし 同

ヘリコプター冬日を受けて並びぬる戦無き世の表象となれ 同

自衛隊派遣の記事に赤線を引きおけば妻も読みはじめたり 同

『革命のベネズエラ紀行』

新藤通弘著(新日本出版社 1400円)

90年代末から、アメリカ支配の新自由主義政策に反対し、自立を求める動きが中南米諸国にひろがっている。ブラジル、アルゼンチン、ウルグアイ、ボリビア等で、選挙を通じ左翼政権、左翼中道政権が成立したが、その最初は、ベネズエラのチャベス政権である。

本書は、04年、05年と2度にわたって同地を訪れた、中南米研究の第一人者である。本の帯の背に「たいま革命中！」

とあるが、眼前に展開する政治・社会変革の様相が、生き生きと伝えられ、迫真的で面白い。

ベネズエラでは変革を「ポリーバル革命」と呼んでいる。シモン・ポリーバル↓ホセ・マルティン・ユバ革命につながる革命思想である。国名を「ベネズエラ・ポリーバル共和国」と改称した新憲法。経済危機の克服と社会改革の進展(農業、教育、協同組合、女性の自立、医療、失業、貧困)。チャベスは社会主義をめざすと宣言。汚職と官僚主義という中南米共通の難問の下で、今後、どのような発展が展望できるか、興味深く見守りたい。



映画の

鏡

沖繩戦の「命」の記録

『ドキュメンタリー「ひめゆり」』

「これは」くなくなった者、生き残った者、それぞれ

それは「ひめゆり学徒隊」(沖縄県立第一高等女子

「ひめゆり学徒」222名は、1945年3月23

6月18日、突然の陸軍病院「解散命令」。

り出すことにも慣れてい

映画をまとめた柴田昌平監督は1963年生ま

していい人は20人」という字幕が最後に流

◇イラク国内で死亡の記者100人に

自由法曹団が反対声明

自由法曹団は21日、政府が国会に提出した放送

日本の首相といえば、まあ、世間の最低の常識

は被害者が加害者と言うセリフであり、歴史的に

お粗末発言を連発する。5月11日の西日本新聞に

「お父さんお母さんが、匿名で赤ちゃんを置き去

い。まずは相談してもらいたい」と強調した点、

「想像力欠如」を鋭く糾弾」する。

首相は長崎市長が撃たれた直後にも、ノーテン

高校日本史の教科書検定で文科科学省

「虚偽報道」を理由に訂正放送を求めている問

朝日「報道ステーション」の報道に対し、自民

新聞

「想像力」の問題ではない

歴代の「首相発言」のなかで、耳を疑うほど非常識だったのが、小泉純

うことは「無知」のそしりを免れない。小泉さん

「親を知らぬまま施設などで育つ子どもたちが

「想像力欠如」を鋭く糾弾」する。

記者は「保守的な国家観、社会観、家族観を刺

国民民主権の条文に抵抗したことをつまびらかに

の映像を使って詳しく紹介した。独協大教授の古

参院憲法調査特別委員会は27日、憲法改正の手

「虚偽報道」を理由に訂正放送を求めている問

朝日「報道ステーション」の報道に対し、自民

月間マスコミ評

憲法施行60年の節目を迎えた5月3日を中心

が出演した討論番組を組んだりしたほかは、各局

としか言いようがない。またテレビ朝の「サン・プ

「親を知らぬまま施設などで育つ子どもたちが

「虚偽報道」を理由に訂正放送を求めている問

国民民主権の条文に抵抗したことをつまびらかに

の映像を使って詳しく紹介した。独協大教授の古

参院憲法調査特別委員会は27日、憲法改正の手

「虚偽報道」を理由に訂正放送を求めている問

朝日「報道ステーション」の報道に対し、自民

テレビ

憲法問題 民放は「素通り」

放送を見送った。憲法改正を標的とした国民投票

法をめぐり激しい議論の最中、テレビが憲法問

根元総理大いに語る」を「焼け跡から生まれた憲

「想像力欠如」を鋭く糾弾」する。

記者は「保守的な国家観、社会観、家族観を刺

国民民主権の条文に抵抗したことをつまびらかに

の映像を使って詳しく紹介した。独協大教授の古

参院憲法調査特別委員会は27日、憲法改正の手

「虚偽報道」を理由に訂正放送を求めている問

朝日「報道ステーション」の報道に対し、自民



5月20日、東京・明治公園で開かれた「全国青年大集会」には、働く若者の現場からの訴えがあふれた。いま若者の非正規雇用が急増している。偽装請負、「ネットカフェ難民」などメディアも報道し始めたが、解決の方向性は示せていない。一人でも入れる労働組合、首都圏青年ユニオン書記長の河添誠さんは労働組合の力を再認識すべきだと訴える。



首都圏青年ユニオン 河添 誠さん

労働環境が悪くなったのは90年代半ばからですか？

日経連の「新時代の日本の経営」(95年)という報告に沿う形で派遣の規制緩和が進みました。

86年には派遣法が成立、99年にはその業種制限がほとんど撤廃されました。前は特定のスキルのある人だけが対象だったのが、規制緩和されたので、04年の製造業分野での解禁。これで労働環境は急速に悪化しました。長期不況のためというより政策的に作られたものです。

大企業の大規模なリストラ

企業側はそれでもいいのでしょうか。産業構造が変わり海外の安い賃金に抵抗するところまでなければ競争に打ち勝てないというので、日本でも賃金を低下させ

って大規模なリストラも起っています。登録型の派遣では、派遣会社と契約先企業が契約している間は雇用されていますが、その取引関係が切れれば、派遣労働者の雇用は事実上切れてしまふ。非常に細切れの雇用になる。賃金も上がりにくいしスキルの形成も難しい。

賃金水準の低い現場は労働条件も悪い。労基法がほとんど守られず、深夜割増などもない。そうした職場で働く人を青年ユニオンは組織しているのです。

大きな企業ほど労働組合は組織され、正社員ほど組織されています。より劣悪な労働条件の人ほど組織されていない。一番労組を必要としている人たちが組織化される運動が必要です。

いま労働組合組織率は全体で18%。では残りの82%の人は関係ないだろうか。いま労働基準法以下の雇用が拡大している背景には、明らかに企業の雇い手が増えている。それに人気があつたのもそこにある。

その後、すき家では1万人以上のアルバイトに残業代の割増し分が法律通り払われていないことがわかった。交渉して見たものを書くことはできないのかな。記者も忙しいでしょうけど。

調査して書いた記事が期待したいですね。紹介された人に会うだけでなく、しばらく一緒に同行して見たものを書くことはできないのかな。記者も忙しいでしょうけど。

小さな組合でいい運動をしているところはたくさんありますよ。

労働法制を変えようという方向も心配です。貧困の拡大は労働環境の劣悪化から起こっています。劣悪化にブレーキをかけるには国の法律と労働組合しかない。そこを運動側が位置付けなければ。

労働者の権利や、最近貧困が広がっていると悪が一般の人たちの働き方に影響を与えることをもっと書いてほしい。

ある企業の労働者が一人で組合に入っても交渉ができる、ということももっと知られてほしい。

労働の現場で何が起きているのかをもっと取材して、労働法制の規制緩和が国会で通ればどうなるのかを記事にしてほしい。読者としてそういう記事を読みたいと思います。

聞き手 保坂義久 写真 龍本茂浩

この後、すき家では1万人以上のアルバイトに残業代の割増し分が法律通り払われていないことがわかった。交渉して見たものを書くことはできないのかな。記者も忙しいでしょうけど。

調査して書いた記事が期待したいですね。紹介された人に会うだけでなく、しばらく一緒に同行して見たものを書くことはできないのかな。記者も忙しいでしょうけど。

小さな組合でいい運動をしているところはたくさんありますよ。

労働法制を変えようという方向も心配です。貧困の拡大は労働環境の劣悪化から起こっています。劣悪化にブレーキをかけるには国の法律と労働組合しかない。そこを運動側が位置付けなければ。

聞き手 保坂義久 写真 龍本茂浩

規制緩和が進める細切れ雇用 賃下げ、深夜割増ない現場も 人をモノ扱いの「すき家」に怒り

労働環境が悪くなったのは90年代半ばからですか？

日経連の「新時代の日本の経営」(95年)という報告に沿う形で派遣の規制緩和が進みました。

86年には派遣法が成立、99年にはその業種制限がほとんど撤廃されました。前は特定のスキルのある人だけが対象だったのが、規制緩和されたので、04年の製造業分野での解禁。これで労働環境は急速に悪化しました。長期不況のためというより政策的に作られたものです。

大企業の大規模なリストラ

企業側はそれでもいいのでしょうか。産業構造が変わり海外の安い賃金に抵抗するところまでなければ競争に打ち勝てないというので、日本でも賃金を低下させ

って大規模なリストラも起っています。登録型の派遣では、派遣会社と契約先企業が契約している間は雇用されていますが、その取引関係が切れれば、派遣労働者の雇用は事実上切れてしまふ。非常に細切れの雇用になる。賃金も上がりにくいしスキルの形成も難しい。

賃金水準の低い現場は労働条件も悪い。労基法がほとんど守られず、深夜割増などもない。そうした職場で働く人を青年ユニオンは組織しているのです。

大きな企業ほど労働組合は組織され、正社員ほど組織されています。より劣悪な労働条件の人ほど組織されていない。一番労組を必要としている人たちが組織化される運動が必要です。

いま労働組合組織率は全体で18%。では残りの82%の人は関係ないだろうか。いま労働基準法以下の雇用が拡大している背景には、明らかに企業の雇い手が増えている。それに人気があつたのもそこにある。

組合に組織すること以外、突破しようがない。民衆の運動が労働組合を再評価して、労組にお金と人を投入することが大事です。

市民団体が企業に対し面会を求めて拒否されても法的には問題ない。しかし、労組の形で団体交渉を申し込んで会わなかったら、それ自体が不当労働行為です。労組は法的なツールとしてもっと使えよ。

すき家ユニオンの取り組みについては？

昨年7月、渋谷の2店はユニオンが交渉するのはほとんどが法律違反です。成果が上がります。勇気を持って声を上げようとする人には訴えたい。

マスコミは労働運動をどこかネガティブに取り上げている気も。

労働者の権利や、最近貧困が広がっていると悪が一般の人たちの働き方に影響を与えることをもっと書いてほしい。

ある企業の労働者が一人で組合に入っても交渉ができる、ということももっと知られてほしい。

労働の現場で何が起きているのかをもっと取材して、労働法制の規制緩和が国会で通ればどうなるのかを記事にしてほしい。読者としてそういう記事を読みたいと思います。

私のお気に入り

父がのこした「宝」 貴重な戦中のメディア



15年前のこと、同居していたカミさんの父親が他界して、その身辺整理をしていたら、額縁入り表彰状の下から、昭和6年11月13日から15日付までの「東京朝日新聞」と「横濱貿易新報」が出てきました。

記事や広告はもちろん、レイアウトの稚拙さなども面白い。「横濱貿易新報」は、一面トップの見出しが1段。その下

る私にとって「宝」。昭和9年生まれの私です。捨てるなんてできない。セロフィルムで覆って大切にしています。

もう一つは、横浜大空襲時、防空壕に埋めて難を逃れた「写真」。幼稚園児たちの「戦勝行列」(写真)や小学校校庭での仮装行列「銃後はこれだー国民大行進」など数枚。平和のための戦争展などで、これも公開されています。現物だから、電子メディアができないワザを、これらの新聞と写真が見せてくれます。

長谷川径弘(神奈川支部)

ミニニュース

ドイツの二つの戦後処理を知る旅「記憶の碑―和解の関係者たち」

5月上旬、ドイツ文化センター(ゲテ財団)が日本のジャーナリストを招き、標記の報告を行った。

これに参加したジャーナリスト・学者からの報告を聞き、主催者と企画者の佐藤健生氏から、ドイツの経験をもとにアジアに生かす可能性について語ってもらう。

司会 伊藤力司(JCJ、元共同通信外信部)

*交渉中 パネリスト 菅原秀(JCJ)、岸俊光(毎日新聞学芸部)、内海愛子(東京女学園大学名誉教授)、

小田健(日本経済新聞論説委員) *交渉中、水島宏明(日本テレビ報道局解説委員) *交渉中

助言者 Dr. ウーヴェ・シュメルター(ドイツ文化センター所長) マルクス・ヴェルンハルト(ドイツ文化センター文化部長、佐藤健生(拓殖大学教授)

【日時】5月30日(水) 午後6時

【場所】岩波セミナーラーム

【会費】千円(学生500円) 事前予約不要。終了後に懇親会。

沖繩の海も山もクニ(日本)のものかッ辺野古新基地建設に反対する緊急集会、

6月9日(土) 午後6時半から東京・東池袋の

訂正 4月号1面コミックJCJのタイトルは「独裁者の影」でした。